

# 「自ら決める」社会科学学習

## －第3学年の教材化について－

柏木 俊明

### 1. はじめに

社会の中には、様々な社会問題が存在している。これから明日へ向けて生きていく子どもたちは、益々そうした問題にぶつかり、考えたり判断したりする場面がでてくると考える。そして考えたり判断したりしていくためには、様々な情報や知識を得ることが必要になり、判断材料を求めることになる。そのため、これから生きていく子どもたちが、情報を分析し、自ら判断していく場を経験していくことは、大変意義があると考ええる。

ここで、一人一人が、本学校のテーマである自分自身の自立を考え、将来へ向けての学習を行うことは大変大切なことではあるが、そこで学ぶ教材がどんな内容でも良いというものではないであろう。決める場がどんな教材で有効であるか、さらに学年や発達段階でも考慮していかねばならないと考える。特に、3年生の社会科の場合、初めての社会科であるために、社会科とはどんな学習をするのだろうか、とまどいを持つ場合も出てくるだろう。いつも社会科は難しいなと思わせたりますれば、それこそ子どもたちの中にて、社会科嫌いをつくってしまう。

そこで、3年生の子どもたちの実態にあった決める場を設定した社会科学学習をするためには、

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 教材はどのような内容が良いか。</li><li>2 学習展開はどのようにすればよいか。</li></ol> |
|---|

について考え、実践を行った。

### 2. 「わたしたちのくらしとものをつくるしごと」についての実践

#### (1) 小単元について

私たちの暮らしの中には、工業製品は欠かせないものになっている。この、工業製品は、働いておられる人々によってさまざまな検討が加えられ、消費者のニーズを考えて製品化されていく。そうした、製品化をしていく過程では、消費者の願いを考えているという点で、消費者とのつながりを考えることができる。さらに、製品化していくためには、原料を精選し、必要な原料であれば、広島市以外からも運び込まなければならない。また、製品は、広島市以外にも運ばれ、製品を通してさまざまな地域と結び付いていることを考えていくことができる。

子どもたちは、スーパーマーケットの学習の中で、消費者の願いを大切にしたり、社会的な役割を担って品物を販売したりしていることを学習してきた。さらに、商品を通して他の地域ともつながりをもっていることも学習してきた。しかし、こうした学習の中から商品が作られた過程や、商品が作られるためにはどのように工夫がなされてきたかについては、ほとんど考えたことはないようである。こうした点からも、この学習を扱うことは意義あることだと考えた。

#### (2) 小単元と決める場との関わりについて

この小単元では、工場で働いておられる人々と物の製品化について、子どもが興味をもてるようにお菓子工場を取り上げた。導入で、子どもたちに、自分たち自身で商品を製品化していこうとモチかけ、学習の最終段階で、自分たちの製品を決めるという場を設定しようと考えた。しかし、初めて子どもたちは、決める場を伴う学習を行うことになるので、決める場を設定する前に、3年生

なりの様々な情報や知識を得ることが必要と考えた。そのために、まずお菓子工場の見学を行い、どのように製品を作っておられるのか、どのように新しく製品化されているのか、働く人々はどのような工夫をされているのか、具体的に調べていく活動を行うことにした。また、消費者と製品とのつながりを考え、消費者の意見を聞くことを大切にして、子どもたちの製品作りに生かしていこうと考えた。

### (3) 授業の実際

#### ① 単元目標

- ・工場の生産活動について、自然環境、製品化、販売などについて進んで調べようとする。
- ・生産活動の工夫について、意欲的に話し合いに参加できるようにする。
- ・広島市は工場の特色や他の地域とのつながりを理解することができるようにする。

#### ② 実践の概要

第一次 お菓子を製品化していくことを知り、お菓子工場を見学する事で製品化していくための見通しを持つ。…………… 4 時間

①自分たちでお菓子を製品として作ることを知る。

②お菓子工場の見学計画を立て、見学に行く。

・製品化の様子 ・働く人の様子 ・原料の入手先 ・製品の販売先

第二次 製品化するために、情報を集め、グループごとに製品への案を練る。

①グループの課題ごとに聞いてきたことを発表する。…………… 5 時間

②工場の見学をもとに、グループごとに製品の案を考える。

第三次 製品会議を開く。

①案を発表し最終的な決定を行う。…………… 2 時間

(製品は学級活動で作る。…………… 3 時間)

#### ア 導入

この実践を行うにあたって、まずお菓子工場で作られた羊かんを食べて学習を始めた。思った以上に、子どもたちは羊かんが好きで、喜んで食べた。食べ終わって、この羊かんはどこで作られたかと質問すると、工場や具体的な名前もあがってきた。(この羊かんは、クラスの子どもの保護者の所で作られている。) お菓子工場の名前を出すと、また一層興味がわいていたようである。そこで、これは工場で作られたものだけれど、自分たちもこのような製品を作ってみようと思ひかけた。子どもたちにとって、自分たちが製品を作るというのは以外だったようだ。

そこで、作るためには、

**お菓子工場から奥義(ひみつ)を学ぼう**

ともちかけ、工場へ見学に行くこととなった。見学に行くにあたって、調べたいことを子どもたちから考え、一番追究してみたいことでグループを作った。

#### イ 見学

子どもたちは、それぞれの課題を主に解決するように見学を行った。工場では、紅葉まんじゅう、羊かんを中心に作られていく様子をじっくり観察することができ、大変驚いていた。羊かんの作り立ては、大変暖かく、思っていたものとは違うことも触れて体験することができた。また、羊かんに使われているあんは、良い水でないと良いあんにはならないという話を聞き、良い製品を作っていくには良い原料を使わなければならないことなど知ることができた。

#### ウ 全体へ報告

子どもたちは、見学から課題について整理していくと、さらにさまざまな疑問がわいてきた。そこで、お菓子工場の方（保護者）に来ていただきさらに話を聞いた。また、お客さんについて調べるグループは、実際にお菓子工場の店へ行って、お客さんへインタビューを行った。

こうして次のような課題のグループで、全体の発表を行った。

- 原料について
- 作り方について
- 製品について
- お客さんについて
- 働く人について
- その他について

#### エ 決める場の設定（製品化へ）

それぞれの、調べた課題にもとづいてどんな製品化がいいのか、課題のグループ毎に考えた。その時、グループ毎の製品化への視点がバラバラになってしまうと、製品を最終的に決める判断ができなくなってしまう。そこで、全体の製品化へのめあてとして、

- 1, お菓子工場（扇屋）の奥義を生かそう  
（お菓子工場のおかしのひみつを生かす）
- 2, 広島市の特色を生かそう

の2点を条件として子どもたちに出した。

1, の条件は、子どもたちが今まで調べたことを基にして、自分たちの新しい製品を考えていくということである。

2, の条件では、夏休み前まで、社会では広島市について学習してきている。そこで、広島市の特色を生かした製品を考えることで、製品化が深まり、条件として子どもたちが話し合うことができる土台ができる。そうした話し合いがあつてこそ、深く考えて製品を決める事ができると考えた。

ここで、もう一度広島の特徴は何か質問し、イメージするものを発表しあつた。そこで、広島市の特徴を、お互いに共通認識として確認して学習を進めていく事とした。

こうして、子どもたちに条件を提示して、いよいよ製品化へと検討をしていくこととなった。

#### オ 製品化へ

子どもたちが、お菓子工場の製品を基に、同じように製品化を行うことは難しい。特に、羊かんは高温で作られており、危険であるため、今回はクッキーを製品化していくこととした。実際に、子どもたちが製品化しようと考えても、3年生にとって考えてみるだけでは、製品ができるということは実感としてわいて来ない。クッキーならば、子どもたちにも作る事ができるのではないかと考えた。（お菓子工場でもクッキーを作られている。）

製品化への主な検討課題や調べ方は、次の通りであつた。

- 作り方グループ……作り方をもとで調べる。  
保護者に聞いてくる。
- 原料グループ……広島市にあつた原料は何か調べる。  
健康的な原料を調べる。  
保護者に聞く。
- 働く人のグループ……自分たちでできる、衛生に気をつけた服装とはどんな服装か。  
衛生に気をつけるための留意点は何か。
- 製品グループ……パッケージの形、素材はどんな物が良いか。  
お客さんにどうすればアピールできるか。



広島らしい特徴はどう出せるか。

- お客さんグループ……たくさんお客さんを来てもらおうとすればどんな方法があるか。
- その他グループ……広島らしい工場の名前やマークはどんな物が良いか。

子どもたちは、2つの条件をうまく満たそうと、相談しながら、グループでの提案を決めた。

#### カ 製品会議を開こう

製品についてのグループでの提案を、それぞれ発表し、検討をする製品会議を行った。製品会議は、提案とそれに対する質問、意見という形で進めていった。

製品会議の中での主な質問は、

- 作り方グループへの質問……どんな道具を使っていくのか。  
どんな材料を使っていくのか。
- 働く人グループへの質問……給食着の帽子をなるべくかぶったほうが良いとは、かぶらなくてもいいのか。  
給食着を着ることと手を洗うことはどちらが先か。
- お客さんグループの質問……くじを当たりをどのくらい出すのか。  
どのくらいの試食品を出すのか。
- 原料グループの質問……ちりんめんじゃこを入れておいしいのか。
- 製品（クッキーの形、パッケージ）  
グループの質問……個々のパッケージは色紙では薄いのではないか。  
パッケージの形は、簡単だとお客さんに引き付けられないのではないか。  
形は製品が決まらないと、決められないのではないか。
- その他グループ……マークは太田川をうまく表しているか。

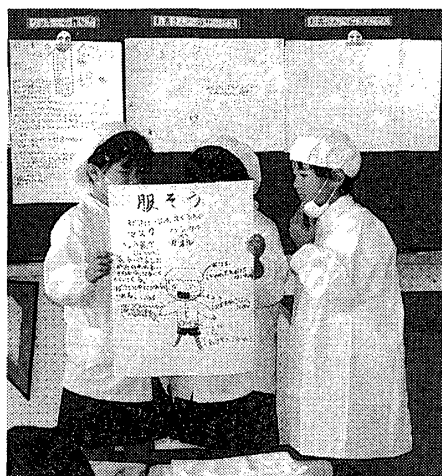
などがあげられた。こうした会議を進めていくために、お菓子工場からも来ていただき、作る側の視点から意見を出していただいた。また、お客さんの意見として保護者の方にきていただき、話を聞いた。お菓子工場の方からは、原料などこれでいいのではないかと意見をもらったり、保護者の方には、パッケージはかわいいものを選んだりするね、という助言をもらったりした。

すべての提案が終わって、教師から「2つの条件を考えて、さらにみんなのアドバイスを聞いた後、みんなはどれに決めますか。」と問いかけた。

そこで、提案から、グループ毎に分かれて、自分たちの最終的な決定をすることとした。

それぞれの、グループで相談を行ったあと、決定したことを黒板に張った。最終的な決定は、

- 作り方グループ……原案どおり。
- 働く人グループ……帽子はしっかりかぶり、髪の毛を出さないようにする。  
準備は手を洗って、給食着を着る。



お客さんグループ………広告を作る。  
原料グループ………原案どおり。  
製品グループ………折り紙の2重構造でパッケージをつくる。形はカープの帽子の形  
その他のグループ………工場は太田川記念工場，製品名はカープクッキー。

キ 製品を作ろう。(学級活動3)

このように，製品を最終的に決めることができたので，学級の時間を使って実際の製品（クッキー）を作ることにした。

### 3. 実践を振り返って

#### (1) 決める場を作るための教材について

今回は，決める場を作るために「工場ではたらくひとびと」の単元を取り扱った。この工場は，お菓子工場ということもあり，子どもたちには比較的受け入れやすく，馴染み易い教材であった。子どもたちは，製品が作られていく様子に，とても興味を持つことができたし，意欲もしっかりと持つことができた。また，家でもこんな和菓子があったとか，こんなパッケージがあったと持ってきてくれたり，チラシを持ってきてくれたりするなど拡がりも持つことができた。今回は，特にお菓子工場の方が保護者であったということから，大変協力的に支援をいただいたので，学習を十分深めることができたと感じている。

また，そうした身近な製品を製品化していくというのは，子どもたちにとっては，他の物よりもイメージしやすく，製品化し易さがあったのではなかろうか。何かを創り出していこうとする時に，自分たちの生活経験を生かしたり，聞き取りができたりすることは，3年生にとってとても大切なことと感じた。こうした点を考えていくと，この教材を扱ったことは良かったのではないかと感じている。

#### (2) 決める場を作るための学習方法について

学習方法として，製品化を目指して学習したことは，子どもたちも興味を持って取り組むことができたという点で，よかったように思う。しかし，製品化を行っていく上で，今回はあまりにも多くの検討項目を作ってしまった。そのため，決める場でどのように考えていけばいいか分からなくなってしまったようだ。また，検討する内容が，他のグループの検討する課題と大きく関係しているために，自分たちだけでは決めることができないこともあった。そのため，決める場を作るとき，検討項目を簡単にしておくか，大きく2つの製品で比べて考えるかという方法を取れば，じっくりと考えることができ，決める場も生きてきたであろう。

今回は，3年生の中でも初めての決める場を設定した学習であったので，学習の進め方にも，とまどいがあったことは否めない。このような大きな単元で，決める場を設定するだけでなく，日々の授業の中で，自分が決める場を作って学習を進めていくことが，学習を内容を深め，高めることができると考えている。

#### (3) 決める場を作った学習後の子どもたちの様子について

決める場を設定した学習を終えて，子どもたちは何かを考えて決めるためには，いろいろな情報を集めないといけないと感じたようである。また，こうした授業を行うことで，社会科の違った面も感じたようである。だが，一度このような形で学習しただけでは，単なる決める学習を経験しただけに終わってしまう。何度もこうした学習を経験させることによって，学習が深まり，決める場の学習がより前進していくと考える。そうして，日々の学習では，自分の意見をどのような根拠に基づいて持ったかを意識して，学習を進めていくことが，これから益々必要であると感じた。